京都大学	博士（社会健康医学）	氏　名	西村（多田）　春江
論文題目	Risk factors for lower limb lymphedema after lymph node dissection in patients with ovarian and uterine carcinoma. (卵巣癌・子宮癌患者におけるリンパ節郭清後の下肢リンパ浮腫に関するリスク因子)		

（論文内容の要旨）

【 背 景 】

リンパ節郭清は、卵巣癌・子宮癌患者の予後を良好にすることが証明されている。しかしながら、この手技による合併症の１つに下肢リンパ浮腫がある。下肢リンパ浮腫は、身体的な問題だけではなく、これに伴う心理的な問題も生じさせるなど、患者の QOL に大きな影響を及ぼす。本研究の目的は、卵巣癌・子宮癌の治療としてリンパ節郭清後に生じるリンパ浮腫の発生およびリンパ浮腫の発生に関連する因子を明らかにすることである。

【 対象と方法 】

1997 年 1 月から 1998 年 12 月の間に国内 10 施設において、組織学的に卵巣癌、子宮癌（子宮頸癌、子宮内膜癌）と診断され、かつリンパ節郭清を受けた患者を対象にレトロスペクティブに調査した。本研究では、20 個以上のリンパ節切除した場合をリンパ節郭清実施例とした。背景情報、治療関連情報（手術、放射線療法、化学療法）、下肢リンパ浮腫に関する情報はカルテから収集した。そのため、本研究では、症状を伴うリンパ浮腫のみを対象とし、下肢周囲径、容量測定を行わないと判断できない軽微な症例は除外されている。

【 結 果 】

卵巣癌(135 例)、子宮癌(子宮頸癌：258 例、子宮内膜癌：301 例)の合計 694 例が対象となった。680 人（98%）の患者が骨盤内リンパ節郭清を受けていた。下肢リンパ浮腫の発生割合は、卵巣癌が 28 人（20.8%）、子宮頸癌が 78 人（30.2%）、子宮内膜癌が 83 人（27.6%）であった（P=0.130）。手術から下肢リンパ浮腫発生までの中央値は、卵巣癌が 4.6 ヶ月（範囲：0.1－40.2 ヶ月）、子宮頸癌が 4.2 ヶ月（範囲：0.1－50.7 ヶ月）、子宮内膜癌が 6.8 ヶ月（範囲：0.1－45.3 ヶ月）であった（P=0.258）。

骨盤内リンパ節郭清を受けた卵巣癌・子宮癌患者（680 人）を対象に下肢リンパ浮腫の発生に関連するリスク因子を検討した。術後放射線療法(オッズ比：1.79；95%信頼区間：1.20-2.67；P=0.006)のみ、統計的に有意な差がみられた。外科的手技や化学療法では、統計学的に有意な差はみられなかった。傍大動脈リンパ節郭清（オッズ比：1.34；95% 信頼区間：0.91-19.6；P=0.158）は、下肢リンパ浮腫発生のリスク因子ではなかった。

【 結 論 】

骨盤内リンパ節郭清を受けた子宮癌患者では、術後放射線療法がリンパ浮腫の発生に関連するリスク因子であることがわかった。しかしながら、外科的手技と化学療法は、リスク因子ではなかった。

（論文審査の結果の要旨）

卵巣癌・子宮癌患者に対して行われるリンパ節郭清後に発生する下肢リンパ浮腫は、機能・整容の面において患者のQOLを損なうことから、充分な注意を払う必要のある合併症の1つである。

申請者は、国内10施設において、卵巣癌(135例)、子宮癌(子宮頸癌:258例、子宮内膜癌:301例)の合計694例を対象にカルテ晴報を用いたレトロスペクティブ調査を行うことにより、卵巣癌・子宮癌(子宮頸癌、子宮内膜癌)の治療としてリンパ節郭清後に生じるリンパ浮腫の発生およびリンパ浮腫の発生に関連する因子について評価した。その結果、下肢リンパ浮腫の発生割合は、卵巣癌が28人(20.8%)、子宮頸癌が78人(30.2%)、子宮内膜癌が83人(27.6%)であった(P=0.130)。また、骨盤内リンパ節郭清を受けた卵巣癌・子宮癌患者(680人)を対象に下肢リンパ浮腫の発生に関連するリスク因子を検討した結果、術後放射線療法(オッズ比:1.79;95%信頼区間1.20-2.67;　P=0.006)では、統計的に有意な差がみられたが、外科的手技や化学療法では、統計学的に有意な差はみられなかった。子宮全摘出術の違いを考慮して検討した結果、骨盤内リンパ節郭清を受けた子宮頸癌患者では、術後放射線療法がリンパ浮腫の発生に関連するリスク因子であることが同定された。

以上の研究は、リスク因子を探索する臨床研究の一つであるアウトカムリサーチの発展に寄与するところが大きい。

したがって、本論文は博士(社会健康医学)の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学授与申請者は、平成21年6月24日実施の論文内容とそれに関連した試問を受け、合格と認められたものである。

要旨公開可能日：　　年　　月　　日　以降